

リンゴワタムシの発生活消長および寄生蜂を活かした防除法

福島県農業総合センター 果樹研究所
平成16～17年度果樹試験場試験成績概要
平成18～19年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

果樹 - ナシ - 病害虫防除
分類コード 04-01-23000000

2 担当者

佐々木正剛・荒川昭弘・穴澤拓未・阿部憲義

3 要旨

交信かく乱剤を基幹防除としたリンゴの殺虫剤削減防除体系では、リンゴワタムシやカイガラムシ類などのマイナー害虫の発生が徐々に顕在化してきた。そこで、殺虫剤の散布回数が異なるほ場においてリンゴワタムシとその寄生蜂の発生活消長を比較し、寄生蜂を活用したリンゴワタムシの防除法を検討した。

- (1) 削減防除体系(殺虫剤の使用回数3回)におけるリンゴワタムシの発生は、5～12月までみられた。7月中旬から寄生蜂(ワタムシヤドリコバチ)の寄生率が上昇し、その後、リンゴワタムシの発生は寄生蜂により抑制された。
- (2) 慣行防除体系(殺虫剤の使用回数11回)におけるリンゴワタムシの発生は殺虫剤散布期間中は少なかったが、散布終了後(9月)から増加した。その後、寄生蜂に対する殺虫剤散布の影響が長期間に認められるため、寄生蜂の寄生率は上昇することなく推移し、リンゴワタムシの発生は削減防除体系よりも多かった。
- (3) リンゴワタムシに対する防除効果は、アセタミプリド(モスピラン水溶剤2,000倍)に高機能展着剤(サブマージ3,000倍)を加用した場合は、マラソン(マラソン乳剤2,000倍)に比べ劣るものの、実用性はあると判断された。
- (4) 以上のことから、削減防除体系では寄生蜂が保護されることにより、リンゴワタムシの発生は寄生蜂によって抑制されることが明らかになった。寄生蜂を保護しながらリンゴワタムシを防除する方法として、寄生蜂に影響の少ないアセタミプリド(高機能展着剤を加用)を使用することが効果的であると考えられた。

4 その他の資料等

なし

